

悼む 哀れ（悲しい）——云う。
五指を集めた指頭で、鼻頭をつつく。

赤い鼻をした人から想像した母。

市場 高い店—店—店。「店」の手まね

を初めに右寄りで度わし、次に前に、そして左寄りと三度ばかり表わす。店の並んだ様。

一日（終日） 人差指と親指をまるく屈めて半円にした両手を間隔を置いて向い合わせで大きな一つの円（太陽）を形どり、それをそのままの姿態で右の腹の脇廻りから上へ弧を描いて胸の前を左へ移行させ、左の腹の脇廻りに落す。日出より日没までの太陽の移行。

一昼夜 一日（終日）の手まねで、左の腹の脇まで落した両手の運動を更に続けて下方へ弧を描いて右の腹の脇まで一周させる。太陽を地球が一周したこと、この他、「寝る一つ」と表わして一日（一昼夜）とするもよ

い。即ち腕を枕にして寝る身振をして「一」を表すればよい。

○三日四日と日数を表わすには、この様式で、夫々の数を表すればよい。

一任（委任） 左手の彎曲した五指の指頭を、右肩の上に被せるように置いて（責任）前へ五指を開いてさし出す。責任を先方に渡すの意味。

意地悪る 「悪意」と同じ手まね。

一曇手 掌を下向け五指の指頭を右にさした左手を胸の右脇前につけ、その手甲の上に五指の指頭を上になしし掌を左向けた右手の腕の肘を載せる。これは「司る」と云う手まねであるが、「一曇手」とするには、その姿態で右手の人差指一指だけを出して見せる。

いつ（何） 時間—いくつ。（何） 何月何日
いつも（常に） 「毎日」と同じ手まね
一切 「凡て」の同じ手まね。

一生 生まれる——してから——死ぬ——まで
(終り)

一 緒 一 致 両手の指頭を上になしたそれ



ぞれの人差指と親指の指頭を同時につけ合わす。二指を合わせるの、物の合致を示したものの。「同じ」の

手まねともなる。

一 生 懸 命 両手の五指の指頭を上になした掌を平行に向かい合わせて、顔を両側で挟み、次に両手をそのまま前方へ真直ぐに出す。馬車馬の目かくしを表わしたものの。他を顧みもせず、ひたすらに進むの意味。

一 層 左手の人差指を胸の前に一の字に横たえてその下に、右手の人差指と親指でコの

字形にしたのを持って行き、次にコの字を一の字の上に置きかえる。更にその上に重ねるの意味で、つまり「一層」となる。

いとこ (従兄弟) 伯父 (叔父) V 息子 (娘)

伯父叔父 (伯母叔母) の手まねから、生れる

一 男性 (中指) 或は女性 (薬指)

一杯くった 掌を上向けて五指を指頭がその指のつけ根につく程に曲げた手を顎の下に直角に手首のところにつけてから、そのまま下に落とす。顎がはずされたと云う身振り。



一 般 (1)「普通」

と同じ手まね。(2)

掌を下に向けた

右手を左胸脇から

前へ弧を描いて前

へ。「みなさん」「御一同」と演説者がする